

## 2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 1 日作成)

小委員会名	光・視環境制御小委員会	主 査 名：吉澤 望 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (光環境運営委員会)	委員長名：秋元孝之 主 査 名：原 直也
設 置 期 間	2021 年 4 月 ～ 2025 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>光環境・視環境の制御に関連した設計・計画手法の検討および規準作成に関する WG 活動を取り纏め、WG 相互の情報交換や成果の情報発信を行う。</p> <p>初年度：各 WG の活動内容を確認し、相互の情報交換・情報交流を行う。</p> <p>2 年度：各 WG での活動成果に基づきシンポジウム等の企画・運営等を行う。</p> <p>3 年目以降の WG 活動方針について議論する。</p> <p>3 年度：各 WG の活動方針を整理し、相互の情報交換・情報交流を行う。</p> <p>4 年度：光・視環境制御・設計・計画・規準作成等に関する今後の活動方針等を取りまとめる。成果に関するシンポジウム等の企画・運営等を行う。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：吉澤望 (東京理科大学) 幹事：山口秀樹 (国土技術政策総合研究所) 委員：大江由起 (東京理科大学)、小林光 (東北大学)、櫻井将人 (静岡理科大学)、鈴木広隆 (神戸大学)、谷口景一郎 (東京大学)、本間陸朗 (立命館大学)、宗方淳 (千葉大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	<p><b>業務用建築物の開口部・昼光照明評価指標WG</b>：日本建築学会環境基準 AIJES-L001-2010 に新たに業務用建物の開口部・昼光照明の評価・設計方法に関する記述を追加するにあたり、学術的な根拠について国内外の知見を整理する。</p> <p><b>住宅の開口部・昼光照明評価指標WG</b>：日本建築学会環境基準 AIJES-L001-2010 の改定に向けて、住宅の開口部・昼光照明の評価・設計方法に関して、最新の知見の整理を行う。</p> <p><b>光と色の見え方制御WG</b>：将来的に設計ガイドラインの制定などを検討すべき新しい光環境・視環境の制御方法について情報交換を行うとともに、現状の問題点やニーズの整理を行う。</p> <p><b>光環境シミュレーションWG</b>：光・視環境制御手法の検討を進めるにあたっての要素技術である光環境のシミュレーション技術について、最新情報を収集するとともに、現状の問題点やニーズの整理を行う。</p>	
2022 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 各 WG の活動内容の確認と今後の方針について情報交換・議論を行った。</p> <p>2. WG 活動が活発に行われた。</p> <p><u>業務用建築物の開口部・昼光照明評価指標 WG</u> 全 6 回の合同 WG を開催し、AIJES-L001-2010 改定に向けて、業務用建物における規準の枠組みに関する議論を進め、改定原稿 Draft の作成を行った。</p> <p><u>住宅の開口部・昼光照明評価指標 WG</u> 全 6 回の合同 WG を開催し、AIJES-L001-2010 改定に向けて、住宅における規準の枠組みに関する議論を進め、改定原稿 Draft の作成を行った。</p> <p><u>光と色の見え方制御 WG</u> WG を 2 回開催し、データベース作成や活動の報告性について議論を行った。</p> <p><u>光環境シミュレーション WG</u> 次年度以降の公開研究会の対応に向けてメールで情報交換を行った。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>なし</p>

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

## 2022 年度 小委員会活動 自己評価

(~~中間年度評価~~・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本小委員会は、傘下の WG においてそれぞれの活動を進め、小委員会では年に一度 WG の主査・幹事が集まって活動状況の報告と意見交換を行うこととしている。WG での活動という点では、特に業務用建築物の開口部・昼光照明評価指標 WG と住宅の開口部・昼光照明評価指標 WG は、窓・開口部規準改訂 WG との合同 WG を定期的実施し、2023 年 3 月末の最終 WG ではドラフトとして改定案原稿を取りまとめる段階までできており、活発な活動を行うことができたと考えている。今後は次年度に向けて光環境シミュレーションに関するシンポジウムや公開研究会などの具体案が固まっていけば、小委員会の当初の目標を十分に達成できよう。以上より、中間年度としては、A 評価に値すると考えられる。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。